

## 東小学校・大久保小学校統合校建設の設計者選定プロポーザル審査の結果について

- 1 第1回審査委員会 平成27年4月16日（木）
  - ・委員長、副委員長の選出
  - ・教育長より諮問書收受
  - ・審査委員会の運営（スケジュール、議事録、傍聴等）について決定
  - ・プロポーザル実施要項、評価項目、評価基準及び配点等について決定
- 2 第2回審査委員会 平成27年6月11日（木）
  - ・15者から参加表明書の提出があったが、1者から辞退届の提出があり、一次審査にて14者から5者を選定
- 3 第3回審査委員会 平成27年6月20日（土）
  - ・二次審査における公開プレゼンテーション及びヒアリングの実施
  - ・二次審査と一次審査の評価点を合わせて、二次審査対象5者から最優秀者及び次点者を選定

### 【最終評価一覧表】

種別	業者名	評価点
最優秀者	株式会社 昭和設計	551
次点者	株式会社 安井建築設計事務所	504
3	A	485
4	B	475
5	C	454

### 【全体概評】

公開プレゼンテーション及びヒアリング審査に進まれた5者の技術提案書は、いずれも小学校としての基本要件を満たしていることは言うまでもなく、新しい学校をつくるための意欲的な提案が込められており、第一次審査の評価点は第1位と第5位の差が、わずか26点であった。だが、第二次審査後の最終結果で第1位と第5位の差が97点に拡大し、また最優秀者と次点者の評価点の差も47点となり、最優秀案が抜きん出る結果になった。審査委員一同が、プロポーザル方式の本来の趣旨である「案ではなく人を選ぶ」ことに十分留意して審査に臨み、新しい学校づくりに対する提案者の考え方や、ともに学校をつくっていく相手として相応わしいかなどについて慎重

な議論を重ねた結果、今回の順位が決定した。

以下に、提案者ごとに講評を述べる。

### 【最優秀者講評】

全般的に技術提案にかかるテーマの理解に努め、新しい学校づくりに誠実に取り組もうとする姿勢が、プレゼンテーションに最もよくあらわれていた。提案内容が具体的かつ非常にわかりやすかったこと、質疑に対する応答が的を射ており、審査委員が感じていた疑問や不安に的確に答えたこと、全体としてバランスのよい提案内容であったことが、第二次審査での高い評価につながった。具体的には、学びのアクティビティを誘発することが期待できる、変化に富んだ緩衝空間となりうる教室回りを提案していること、それらが敷地条件をも考慮して無理なく外観にあらわれていること、児童の立場はいうまでもなく、教職員の職務に対する深い理解と配慮がみられた点などにおいて他の提案者を一歩リードしており、また複雑な条件をバランスよくまとめる能力、今後のワークショップにおいて柔軟に対応し、よりよい案に高めていく意欲と姿勢が強く感じられた。

### 【次点者講評】

統合予定の小学校や校区をよく調べたうえで、地域との関わりについても非常によく考え、地域に開かれた学校の理想を追求する取り組み姿勢は、高く評価される。年齢に応じた学年クラスターの提案、活動の中心となる「まん中ライブラリー」を設けてアクティブラーニングを促進する提案、子どもの居場所づくりなども、審査委員の共感を得た。だが、高学年を習熟度別学習に特化するという提案や、総合教室型の学習環境の考え方について十分な説明が得られなかった。

### 【第3位者講評】

今までの経験と自信に基づく学校づくりの信念が感じられるプレゼンテーションであり、第二次審査での評価点は2番目に高かった。また、地域の特性や校区へのきめ細やかな配慮などの提案も、高い評価を得た。しかし、アクティブラーニングとプレゼン広場、共有リビング、特別教室のオープン化などとの関連づけの説明、メディアセンター機能の位置に対する考え方、「マルシェ」や「シェアハウス」の概念、教職員の立場の理解や配慮について、審査委員全員の理解を得るに至らなかった。

### 【第4位者講評】

「日本一の小学校をつくる」という意気込みが、特別教室群と「よつばステップ」の関係、普通教室まわりの空間における学習活動の広がりなどにおける独自の提案によくあらわれている。また、地域との交流や外部とのつながりについても、非常によく考えられている。しかしながら、教室まわりの空間における学習展開に対する説明

や、図書館を地域に開放することを想定した場合の位置や管理方法に対する説明に、やや無理が感じられたことなどにより、第二次審査での得点が伸び悩んだ。

### 【第5位者講評】

メディアセンターなどからなるラーニングセンターを学年ハウスが囲むという全体コンセプトは、アクティブラーニングを促進する仕掛けとして期待を抱かせるものであり、また2・3階レベルに広がるテラスにも、様々な活動を誘発する可能性を感じた。しかしながら、学年ハウスとラーニングセンターの具体的な活用方法や、提案の目玉の一つと思われた2階レベルのテラスについての十分な説明がなかったことなどにより、新しい提案の有効性や、どのような学校を目指しているのかなどの重要な点が、審査委員にうまく伝わらなかった。

### 【公開プレゼンテーション及びヒアリング審査の様子】



※平成 27 年 6 月に株式会社昭和設計と契約を締結しました。